

アスペン中学生短期交換 留学事業(派遣)参加報告



姉妹都市米国アスペン市との交流事業『アスペン中学生短期交換留学事業』が3年ぶりに再開。令和5年1月4日から15日までの12日間、村内の中学生と後期課程生をアスペン市に派遣しました。現地での生活や人々との交流などを通して得られた「学び」は、生徒たちにとって一生の「財産」となったのではないのでしょうか。
参加者：中学生・後期課程生9人、引率者2人

していましたが、ホームステイ先の方が買い物物の仕方やおすすめ商品を教えてくださり楽しく買い物をすることができました。私の行きたい場所、お店に連れて行ってってくれようと思ったこと。私がアスペンに行きたくて、英語は単語だけでも伝わるとのことです。私は、英語が苦手です。アスペンに行くと、ちゃんと話せるのか不安に思っていました。けれど、意外にも単語だけでも相手の方が理解してくれたので会話が成り立ちました。海外で英語が伝わるか心配でも、単語を覚えていけば全然伝わるのでそんなに心配にはなりません。アスペンでたくさんお世話になって心配事もなく楽しく過ごせたのはホーム

ステイ先の方が配慮してくれただけです。また、アスペンに行ける機会があったら、もっと英語を完璧にして行きたいと思えます。

アスペンでのひととき

自分は初日から波乱な出来事ばかりでした。空港での保安検査に引っかけたり、トラウマになるほどの恐怖を味わいました。アスペンに着いてからはホストファミリーと再会することができ、とても楽しく、うれしかったです。家に着いてからの夕食はインディアンカレーを食べました。日本のお米との質の違いに驚きました。

お土産を買うために巨大なショッピングモールに行き、アメリカらしいチョコやステッカーを買いました。アスペンでの思い出の品を買って良かったです。日本のショッピングモールよりも広く、品ぞろえも多かったです。アスペンのスキー場はトマムとは比べものにならないほど広大でした。ただ、標高が高いため手足が冷たくなり、酸素が薄いため目まいがしました。ですが、それ以上に楽しむことができました。休日にはコストコに行ったり、バスケットの試合を見に行ったりで充実した時間を過ごせ



ました。アスペンの人々とたくさん触れ合うことができたと感じています。学校訪問では一緒に遊んだり、スキーのメンテナンスを体験させてもらったりと日本とは違う雰囲気の中で楽しみながら勉強してきました。他にもアメリカの先住民の話も聞いたり、鉱山に行ったりもしました。

帰りの飛行機の中ではおいしい日本の機内食を食べることができ、一人で泣きそうになりました。波乱なことや恥ずかしいこともありましたが、楽しい思い出や経験を積んで帰ってきました。今後の人生や出来事に生かせると思います。そして、占冠村とアスペンの交流留学事業でもし何か関わることがあるならばお手伝いしていきたいと思えました。



アスペンに行くことで体験した出来事は、ホストファミリーがおもてなしをたくさんしてくれました。自由時間にはゲームに誘ってくれ、一緒に楽しく過ごすことができました。アスペンの街にも連れて行ってくれました。公園にはアスペンと占冠の交流の記録が記されていて、占冠の人間としてうれしく思いました。次に体験したことは、日本ではなかなか食べられないものを食べることもできたことです。私には肉厚のステーキや大きなロブスターなどを食べさせてくれました。アメリカのお肉は分厚くても柔らかく、旨味が非常に感じられました。他にもさまざまなアメリカの料理を振る舞ってもらい、日本とは違う食文化や味付けに驚き、毎日食べるのが楽しく感じました。

アスペンでの出来事

占冠中学校 石坂 佑都

私がアスペンに行くことで体験した出来事は、ホストファミリーがおもてなしをたくさんしてくれました。自由時間にはゲームに誘ってくれ、一緒に楽しく過ごすことができました。アスペンの街にも連れて行ってくれました。公園にはアスペンと占冠の交流の記録が記されていて、占冠の人間としてうれしく思いました。次に体験したことは、日本ではなかなか食べられないものを食べることもできたことです。私には肉厚のステーキや大きなロブスターなどを食べさせてくれました。アメリカのお肉は分厚くても柔らかく、旨味が非常に感じられました。他にもさまざまなアメリカの料理を振る舞ってもらい、日本とは違う食文化や味付けに驚き、毎日食べるのが楽しく感じました。

アスペンでの思い出

占冠中学校 石塚 葵

最後に体験したことは、文化の違いです。アメリカの小銭がよく分からなかったとき、優しくコインの種類を教えてくださいました。他にも、アメリカの人たちは気さくでよく話しかけてくれるフレンドリーな人たちがたくさんいました。アメリカの人は会話をすることが好きで、たくさん話しかけてくれたので、退屈することなく毎日楽しく過ごすことができました。アスペンはとても素晴らしいところなので、ぜひ皆さんにも行ってもらいたいです。

アスペンでの思い出は、三つあります。一つ目は、ホストファミリーとカーボンデールに行ったことです。最初に、お昼ごはんを食べに行き、飲食店でパニラシェイクを飲みました。甘くてとてもおいしかったです。次に、アスペン生のお母さんオススメの紅茶屋に行き、火薬という紅茶を飲みました。その後には4家族でボウリングをしました。

占冠中学校 小瀬 綺乃

アスペンに行くことで体験した出来事は、ホストファミリーがおもてなしをたくさんしてくれました。自由時間にはゲームに誘ってくれ、一緒に楽しく過ごすことができました。アスペンの街にも連れて行ってくれました。公園にはアスペンと占冠の交流の記録が記されていて、占冠の人間としてうれしく思いました。次に体験したことは、日本ではなかなか食べられないものを食べることもできたことです。私には肉厚のステーキや大きなロブスターなどを食べさせてくれました。アメリカのお肉は分厚くても柔らかく、旨味が非常に感じられました。他にもさまざまなアメリカの料理を振る舞ってもらい、日本とは違う食文化や味付けに驚き、毎日食べるのが楽しく感じました。



まで、雪上車に乗せてもらい、山の頂上近くまで行きました。見晴らしが良く景色がとても素敵でした。スノーマシーンでチーズフォンデュと、ホットチョコレートを食べました。ホットチョコレートは甘くて、温まりました。三つ目は、1月9日にスノーマス議会に行かせてもらったことです。議会では、交流事業について感謝の気持ちを議員の皆さんへ伝えました。議会で中学生の代表としてスピーチをさせてもらえたことはとても貴重な体験でした。



アスペンの思い出

占冠中学校 佐々木 琉翔

はじめに、今回自分にごような貴重な体験をさせていただきありがとうございます。私は初めての海外だったので不安なことがたくさんありましたが楽しむことができました。ここでは私が実際にアスペンに行つて見て驚いたことなどを紹介します。

まずは食文化です。私もアメリカ人の食事は多いことは知っているつもりでした。しかし実際は自分の知識は違いました。アメリカ人は朝からたくさん食べると思ってい

ましたが朝ごはんは少なめでした。なぜならアメリカ人は学校などに行くのにバスを使うのでバスの中で食べることもできるからです。アメリカの通学は日本と違い特に規制がなくバスの中で飲食をしたりゲームをしたりすることが普通でした。朝ごはんは少なめでしたが昼ごはん、夜ごはんは多かったです。さらに日中は常にお菓子などを口にしています。日本ではとても考えられないことです。

次にスキーについてです。アスペンの人は休日にスキーに行くことがとても多いそうです。自分のホストファミリーは冬の間、ほぼ毎週スキーに行くと言っていました。スキー場はコースの数がとても多かったです。トマムリゾルトとは大きな違いがありました。コースは初心者用から上級者用まで細かく分けられていてゴンドラも2機あり、スケールの大きさに驚きました。

スキー場の敷地内にレストランやスケートリンクなどさまざまな施設があり、1日中いても飽きることがないように過ごせる工夫が施されています。ここで紹介した食文化とスキー以外についてもたくさん学べる機会が与えていただき本当にありがとうございました。

私も最初はアスペンに行くのが不安でした。なぜなら、私はあまり英語が話せなくて自分の感情を相手に伝えることができないか、ホストファミリーを困らせないかが不安だったからです。ですが、単語を言うだけで理解してくれたりと、翻訳アプリを貸してくれたりしました。そのおかげでたくさん会話ができてとても助かりました。



もみんな陰性でひとまず安心しました。ですが、お母さんがコロナになった以上その家には入れないので、週末は別の家族の家に滞在する準備をしました。ごめんね、大丈夫？と心配され、大丈夫とは言ったものの、多少の不安や、無事に帰ることができかなど、考えると怖かったです。

最初は不安しなくて12日間なんて長すぎると思っていました。実際行ってみると一日一日があつたという間でした。どんな生活が楽しくなつていき、コミュニケーションもたくさん取れるようになって、たくさんの人と仲良くなりました。

今回の短期交換留学事業に参加するに当たって、英語しか通じないことや、普段とは違う気候や標高で病気がかかることに対して不安を感じ、飛行機の中などで「行きたくないな」と思うこともありました。ですが、実際行ってみると現地の人やホストファミリー、前に日本に来た人たちが、できるだけ簡単な英語で話してくれたり、積極的に翻訳機を使ってくれたりして、みんなの温かきを感じました。最終的に、帰ってきたときに「彼らにまた会いたいな」と思うようになりました。これからの定期的にアスペンの人たちと連絡を取り合っていくかと思っています。

また、私は市に用意してもらったプログラムや休日の自由行動の中で、たくさん「初めて」を経験しました。例えば、Aspen Middle Schoolに併設されたレクセンターでやったビリヤードです。私はルールもほぼ知らず、須藤教頭先生に教えてもらいながらアスペン生と遊びました。思い通りにうまくプレイできませんでした。楽しく遊ぶことができました。

ゲームなどの文化では、日本ではあまり知られていない

アスペン

占冠中学校 千葉 朗磨

私は最初はアスペンに行くのが不安でした。なぜなら、私はあまり英語が話せなくて自分の感情を相手に伝えることができないか、ホストファミリーを困らせないかが不安だったからです。ですが、単語を言うだけで理解してくれたりと、翻訳アプリを貸してくれたりしました。そのおかげでたくさん会話ができてとても助かりました。

私も最初はアスペンに行くのが不安でした。なぜなら、私はあまり英語が話せなくて自分の感情を相手に伝えることができないか、ホストファミリーを困らせないかが不安だったからです。ですが、単語を言うだけで理解してくれたりと、翻訳アプリを貸してくれたりしました。そのおかげでたくさん会話ができてとても助かりました。



また、私は市に用意してもらったプログラムや休日の自由行動の中で、たくさん「初めて」を経験しました。例えば、Aspen Middle Schoolに併設されたレクセンターでやったビリヤードです。私はルールもほぼ知らず、須藤教頭先生に教えてもらいながらアスペン生と遊びました。思い通りにうまくプレイできませんでした。楽しく遊ぶことができました。

また、私は市に用意してもらったプログラムや休日の自由行動の中で、たくさん「初めて」を経験しました。例えば、Aspen Middle Schoolに併設されたレクセンターでやったビリヤードです。私はルールもほぼ知らず、須藤教頭先生に教えてもらいながらアスペン生と遊びました。思い通りにうまくプレイできませんでした。楽しく遊ぶことができました。

また、私は市に用意してもらったプログラムや休日の自由行動の中で、たくさん「初めて」を経験しました。例えば、Aspen Middle Schoolに併設されたレクセンターでやったビリヤードです。私はルールもほぼ知らず、須藤教頭先生に教えてもらいながらアスペン生と遊びました。思い通りにうまくプレイできませんでした。楽しく遊ぶことができました。





アスペンへの思い

トマム学校 藤本このはな

私がアスペンで生活を送る際に大切にしていたことは「コミュニケーション」でした。アスペンで過ごしている間、とにかくたくさん会話やコミュニケーションをすることを目標にしていました。自分の頭で組み立てた自分の英語が、現地ですぐに伝わらないうちの感動が忘れられませんでした。コミュニケーションに重きを置いて、自分が持っている力の全てをコミュニケーション能力に注いだ結果、私には老若男女古今東西のいろんな友達ができました。3歳になった男の子とスキーをしたり、ネイティブアメリカンの男性に絵を描いて贈ったり、イタリア人のおじさんとダンスをしたり。とにかく楽しい思い出や経験がたくさんできました。

トマムに引越してきてから今までの4年間、私はずっとアスペンに行くことを夢見ていました。新型コロナウイルスの流行により、私が行く予定だった令和4年度の姉妹都市交流はビデオ通話という形で行われました。夏休み中に家でビデオ通話をしながら一緒にパンケーキを作ったのは良い思い出です。ですが、その反面「もっと会話がしたい」「どうしても自分の

足でアスペンの空気を感じたい」「もし来年も行けなかったら」「そもそも来年9年生になる私は参加できるのか？」など、さまざまな思いが私の中にありました。そんな私の背中を押してくれたのは、私のことを3年間見てくださり、私にたくさん英語を教えてくださいました。兼担任の先生の言葉でした。令和元年度にアスペンに行っていた彼に、「アスペンに行きたい思いがあるなら、ぜひこの機会にはアスペンでの生活を体験してきてほしい。受験を気にして行かないまま後悔だけはしてほしくない」と熱い言葉を掛けてくださり、



私の中で、「自分はアスペンに行くべきなんだ」とアスペンへの思いを再確認することができました。この度、中学2年生と8年生の生徒が対象であるところに、9年生である私を受け入れてくださった姉妹都市交流実行委員会の皆さまには感謝してもきれません。私にこのような最高の経験をさせてくださり、本当にありがとうございました。これからも、もっと勉強を重ねて、もっと英語スキルを上げて、いつか必ずまたアスペンに行きたいです。

中学生短期交換留学事業に参加して

占冠中学校 山上 恵理

海外旅行の経験がなく、初めて日本を出ることになったため、英語でコミュニケーションを取れるのか、入国審査を通過することができるとか、ドルで買い物ができるのか、長時間のフライトに耐えられるのかなど、生徒と同じようにたくさん不安を抱えて出発しました。

学校訪問やスキー、鉱山ツアー、ACESツアーなど、さまざまな体験をさせていただきました。その中でも特に印象的だったことの一つが、アスペンの先住民の方であるユート族の方のお話です。

視点で世界全体のことも考えて行動できる人として将来活躍されることを期待しています。今後も、この占冠村とアスペン市との姉妹都市交流事業がより発展的に継続されることを願っております。そして、今回の事業に関わりお世話になった多くの皆さまに感謝申し上げます。大変ありがとうございました。



刺激的な12日間

トマム学校 須藤 和宏

今回の姉妹都市交流事業に引率の立場として参加させていただき、9人の生徒たちが異国の地で戸惑いながらも日々適応していく姿にたくましさを感じました。自分自身もかけがえない貴重な体験をさせていただいたことに對して改めて感謝しています。

刺激的な12日間でした。アスペン市はアメリカコロラド州の3000級級の山々が取り囲む雄大な自然の中に取りました。リゾート地としての素敵な街並みやスキー場の規模には圧倒されました。三つの学校訪問を通して、日本とアメリカの教育の方針の違いや両国のそれぞれの良さも感じ取ることができました。

そして何より、アスペンの方々との心温まる交流がとても印象的でした。地方紙に我々の訪問について紹介され、町全体で歓迎されていると感じました。個人的には、人生で初めての12日間のホームステイ体験で、ホストファミリーのJanさんとPeterさん、夏にトマムに滞在されたJoainさんとJaisonさん家族には言葉では言い表せないほど大変お世話になりました。アスペンの人たちの温かい気持ちの一端に触れることができたエピソードもありまし

た。ハイスクールのバスケットボールの試合を見学する機会があり、試合の趣旨を聞くこと、出場選手の一人の高校生のご両親が昨年交通事故で亡くなり、この生徒へのチャリティーのために開催されたという話で胸が熱くなりました。

アスペンの歴史も興味深いものがありました。先住民ユート族の夏のキャンプ地から19世紀後期に全米最大の「銀鉱山の町」へ。そして戦後に現在のスキーリゾートの地へ。きっかけが1946年のAspen Skiing Corporationの創設であり、この創始者が、ホストファミリーのPeter Pfeiferさんのお父さんのFred Pfeiferさんであることを教えてもらいました。スキー場には彼の業績をたたえる銅像も建っています。現在のアスペンに貢献された方とつながりのあるホストファミリーにお世話になったことも大変光栄でした。

異国の地で、言語は違えど思いがあれば気持ちは十分に通じると実感できたこと、人の温かきを感じることができました。

9人の皆さんの留学体験は一生の財産です。皆さんには、ぜひこの体験を糧にして、新しいことに挑戦する気持ちを持ち続けてもらいたいです。さらに、グローバルな



2023年1月10日 トーレ・アスペン市長訪問

アスペン中学生短期交換留学の期間中、田中村長と役場企画商工課職員2人もアスペン市へ渡航し、これまでの交流事業で積み重ねた友好関係に感謝を伝え、今後も発展的な交流を続けられるようアスペン市長、アスペン市議会、スノーマス議会、姉妹都市委員会などを訪問しました。

トーレ・アスペン市長からは、占冠村は重要なパートナーであるとお言葉を頂き、アスペン市議会では、在デンバー領事館の陸地首席領事立ち会いの下、2023年1月10日を「占冠の日」とする宣言が読み上げられ、田中村長へ公式文書が手渡されました。



「違いは美しい」という言葉が心に残っています。アスペンのこと、アメリカの良さも実感しました。また、学校を離れ、長い時間一緒にいてさまざまな経験を共にし、私が担任している7人の生徒の皆さんの新たな良さをたくさん知ることができました。

一緒に引率をしてくださったコーリーさん、ティンバーさん、須藤教頭、温かく受け入れをしてくださったホストファミリーの皆さん、関わってくださったアスペンの皆さん、占冠中学校の教職員の皆さん、そして一緒に多くの経験をしてくれた生徒の皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいですが、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。